



伊藤準也
が行く
Vol.44

働く機会と場所を作りたい！
福祉の閉塞感に風通しを！
旅行できない人に世界を見せたい！
その理念が「太陽公園」で結実した

写真右ページから白鳥城（右上）、兵馬備坑（左上）、グループの恒例行事のどんと焼き（右下）、天安門（左下）。左ページはモノレールで行く白鳥城（全体）、ウエルカムハウスで接客する利用者（下）



伊藤準也
が行く
Vol.44

太陽公園

「仕事、楽しい！」

看護師の活躍する現場を訪ねる本コーナーですが、2017年の第1回は趣向を変えて、福祉施設とテーマパークを融合させた新しい試みを行う「太陽公園（兵庫県姫路市）」に、伊藤準也が訪問。運営する太陽福祉グループ副代表の小林氏、園長の浦久保氏に話を伺いました。

実物の3分の2の城など 創設者のこだわりが満載

伊藤 今日午前中に石のエリア、昼過ぎに白鳥城のある城のエリアを案内いただきました。とにかく敷地が広いですし、すべてのオブジェのスケールの大きさに圧倒されました。石のエリアの見学が終わった段階で歩数計をチェックしたら、なんと6000歩を超えていました（笑）。公園全体ではどれくらいの広さになりますか？

浦久保 15万7000平方メートルで、甲子園球場4つ分前になります。
伊藤 ここは関西だから、面積の比較対象が東京ドームではなくて、甲子園球場なんですね（笑）。設置されているオブジェは、白鳥城や泰始皇帝の兵

馬備坑など、すべて世界各国の建造物、石像彫刻だと伺いました。僕もいくつか実物を見たことがあります。それらに比べても遜色ない。大きさと奥行きを目で実感できました。

浦久保 創設者である前代表がとてもこだわっている部分です。例えば、白鳥城はモチーフとしたドイツのノイシュバンシュタイン城の3分の2のサイズで、城の建設にあたっては創業者自ら何度も現地へ足を運び、完成時にはドイツの総領事にも来ていただきました。兵馬備坑は実物サイズで、中国の学会員の監修のもと現地で制作し、1体1体船で運んだと聞いています。
伊藤 創設者の太陽公園に対する並々ならぬ思いが伝わってきます。オープンしたのはいつですか？

浦久保 石のエリアが1992年、城のエリアが2009年です。最初に来てきた建造物が鶴尾寺で、住職もいます。もともとあの場所に存在しており、歴史的には豊臣秀吉の家臣、黒田官兵衛の焼き討ちに遭ったようです。それを創業者が再建しています。
伊藤 今回は時間がなく、駆け足で見学しましたが、家族とゆっくりと楽しみたい場所ですね。

国内では「太陽公園」だけ？ 福祉と娯楽のハイブリット

伊藤 ところで、太陽公園は一般的な

テーマパークと少し違う試みを行っているかと聞きました。福祉施設のグループがテーマパークを運営して、障がい者の就業の場として、提供されておられるんですね。
小林 ここでは私も太陽福祉グループが運営する福祉施設に入所、通所している障がい者や高齢者、生活要保護者の皆さんが働いてくれています。
伊藤 今風に言えば、「福祉とエンターテインメントのハイブリット」ということですね。障害者雇用促進法のもと、最近では障がい者の雇用に力を入れる企業も出てきていますが、ここはその先を行っている。こういう試みは



PROFILE
太陽福祉グループ副代表
社会福祉士 精神保健福祉士
小林敬知さん
姫路市生まれ。高齢者デイサービスセンター、看護施設、障がい者支援施設の施設長を歴任し、現在は太陽福祉グループの副代表を務める。創業者の門口聖蔵は祖父にあたる。家庭では、5歳の父として子育てに奮闘中。



PROFILE
太陽公園園長
浦久保大樹さん
奈良県天理市生まれ。平成16年、介護福祉士取得。専門学校卒業後、奈良県内の介護施設、障がい者支援施設で約10年間勤務。たまたま遊びに来た太陽公園で創業者の門口聖蔵に出会い、その人柄に惹かれ転職、以降太陽公園で勤務する。

ハンデのあるなしにかかわらず 役割を自覚し、やりがいをもつて働く 本当のノーマライゼーションとは 何かを考える機会を与えてくれた

全国的に見ても他にないでしょうね。

小林 たぶん、ここだけだと思います。

伊藤 レストランで使う割り箸の袋詰めをしている男性に少しお話を伺ったから、「仕事、楽しいー」って笑顔で答えてくれましたし、レジでは別の男性が、「前のところよりも、こっちはほうが楽しい」と、「人見知りなんです……」などと照れていましたけれど、他のスタッフにいろいろ指示するなど、本当に生き生きと働いておられました。**浦久保** 今日はちょっと緊張していたのかもしれないです。いつもはもっとみんなおしゃべりなんですよ。

伊藤 太陽公園では、何人ぐらゐの入所者や通所者が働いているのですか？

小林 高グループは社会福祉法人が4つと財団法人、株式会社などで構成されています。障がい者支援施設が3カ所のほか、特別養護老人ホーム、介護施設などがあります。利用者の数は約1000人で、1割にあたる約100人がスタッフとして働いています。

浦久保 先ほどの案内のほか、線香を作ったり、しいたけを栽培したり、ケーキを焼いたり。そうした授産品はお土産としても販売しています。また、公園の清掃も仕事の一つです。観光客とコミュニケーションをとるきっかけにもなっていて、やりがいを感じているスタッフも多いですね。

伊藤 清掃スタッフとして障がい者が雇用している企業も少なくありませんが、同じ清掃でも、遊びにきた皆さんに喜んでもらっていることが分ければ、余計に頑張ろうと思えますよね。実際、公園はゴミ一つなく、キレイでした。

伊藤 創業者の門口繁蔵氏は、なぜこのようなテーマパークを造られたのでしょうか。興味があります。

小林 3つの目的があったようです。一つは利用者さんの就労支援、二つめは一般のお客さんが来園することで、福祉施設特有の閉塞感をなくし、風通しを良くすること、三つめは障がいや貧困などで海外に行けない人に、世界の雰囲気を感じてもらおうこと、です。

伊藤 なるほど。それで世界各国の建造物や石造が設置されているんですね。**小林** 前代表はぜひいたく品だから時計も財布も持たないような人だったんですが、昔から海外にはよく行っていました。当時からすでに太陽公園の構想があったのだと思います。

伊藤 資料には、「ヨーロッパアンパケーションタウン」を実現させたいといった趣旨がありました。福祉が必要な人たちがここで暮らしながら、社会に出る、あるいは社会に復帰するための技術やノウハウを身につけられる場を作りたいかっただけなんです。でも、急いいろいろな建造物ができてきて、スタッフの人も驚いたでしょう。

小林 当初は「何をやっているんだろう」と思ったみたいですが（笑）。今は解放感のあるこういう場を上手に活用して、利用者さんと散策をしたり、当グループの他の施設利用者の方と交流したりしています。

伊藤 前代表の理念に共感して、転職されてきたのが、浦久保さんです。浦久保さん ええ、奈良県で福祉関係の仕事をしていたときに、たまたま家族で太陽公園に遊びに来たんです。そのときに白鳥城の建築の様子を見に来ていた前代表にお会いし、理念を聞いた自分もぜひそこにかかわりたいと、それでこちらに再就職して、家族とともに引っ越してきました。

伊藤 前代表の理念に共感して、転職されてきたのが、浦久保さんです。浦久保さん ええ、奈良県で福祉関係の仕事をしていたときに、たまたま家族で太陽公園に遊びに来たんです。そのときに白鳥城の建築の様子を見に来ていた前代表にお会いし、理念を聞いた自分もぜひそこにかかわりたいと、それでこちらに再就職して、家族とともに引っ越してきました。



石のエリアの入り口では入所・通所者がチケット切りを指し

与えられた仕事をやるだけでなく スタッフとして主体的に動く

伊藤 僕が太陽公園を素晴らしいと思うのは、「普通と違」の発想で運営されているところです。通常は、圧倒的に世の中では数が多い障害者の中に、マイノリティである障がい者や生活費保護者などがいて、暮らしています。ところが、ここではそれが逆転しています。障害を持った方や生活費保護者の方の生活の場にテーマパークがあり、

「自分たちの街」のような存在のところに一般客が訪ねて来るといいます。

伊藤 昨今、施設から地域に戻すという声が高まっていますが、環境が整わないまま社会で暮らし始めても無理がある。授産所として街なかにかフェニやパン屋を作るのも決して悪くないけれども、それは僕からしたら社会に開けられているようにしか見えません。ここのように、エンターテインメント施設を、一つの社会として成立させるという方法は、考え方としては面白いと思います。

小林 当グループでは働く場を与えるというよりもむしろ、太陽公園のスタッフとして一緒に働いていこうというスタンス。なので、みんな運営スタッフの一人という意識を持っています。

伊藤 授産施設にもいろいろありますが、月の賃金が1万円に満たないところもあると聞きます。そういう意味でもここは他と違いますね。利用者以外の人もスタッフとしてパートやアルバイトで働いているんですか？

浦久保 近所の主婦の方などにパートで働いてもらっています。

伊藤 反応はどうでしょうか。

浦久保 こく自然です。これまで福祉関係の職についていたこともなく、知識も技術もない方が多いのですが、普通に同僚として接しています。言葉が適切ではないかもしれませんが、「慣れ」なのかもしれません。

伊藤 まさに、暮らしの一部。本来はそうあるべきなんじゃないかと。

浦久保 観光客も、事前に太陽公園がどんな施設であるか知らないで来るケースが多くて、最初は戸惑うようですが、途中からは普通に楽しまれています。



石のエリア内にある福祉ショップ「アポロン」で作業

伊藤 地方にあるテーマパークの多くが集客できずに閉鎖されていくなか、ここは成功しているといえます。ここは成功しているといえます。ここは成功しているといえます。

小林 白鳥城を中心としたコミュニティを作りたくと考えています。グループホームなども必要でしょう。もっと多くの利用者さんの就労が可能になる仕組みなども構築しなければ。

伊藤 これだけ広大な土地を持つ太陽公園ですから、いろんな挑戦ができそうですね。今回の取材では太陽公園のスケールの大きさに圧倒されましたが、それは単に建造物の大きさではなく、一人の人間の思いが、例を見ない斬新な街を作るといっても過言ではありません。

浦久保 まさに、「なぜ成る、なぜ成らぬ何事も」の言葉通りです。何かと閉塞感を感じる、最近の医療・福祉ですが、一人ひとりの思いの大切さを改めて実感させる年頭の取材でした。

太陽公園

豊皇の兵馬俑や凱旋門など、各国の建造物・石像彫刻で世界旅行をした気分を味わえる「石のエリア」と、ドイツのノイシュヴァンシュタイン城をモチーフにした白鳥城やトリック3Dアートが楽しめる「城のエリア」からなる広大な公園。

住所：兵庫県姫路市打越1342-6 電話番号：079-267-8800 (代)
アクセス：姫路駅から車で20～25分
営業時間：9:00～17:00 (入園受付16:30分) ※不定休
入場料：高校生以上1300円 / 小・中学生500円 / 小学生未満無料 / 75歳以上500円 / 障がい者・介助者600円 / 障がい者(小・中学生)300円
※他に団体割引などあり 車イスは無料で貸出。各所車イス用トイレ完備。石エリアは急な勾配の坂道が随所あり。城エリアはモノレールがありそのまま見学可
URL: <http://www.taiyo-park.com/>

PROFILE 伊藤準也 (いとうしゅんや)

医療ジャーナリスト・写真家
医療情報研究所代表

患者中心の医療を実現するため医療ジャーナリストとしてテレビや雑誌などのメディアで活動中
ホームページ shunya-to.tv



トリック3Dアート体験の記念写真